



新人看護師の6ヶ月

看護部 教育担当看護師長 青池 英子

毎年4月になると、専門学校や大学などで看護基礎教育を終え、看護師国家試験を合格した新看護師たちが、当院で看護師1年目をスタートさせます。看護師になるためには、学生時代に色々な領域で実習することをご存知の方も多いと思います。しかし、2年以上に及ぶコロナ流行の影響を受け、看護学実習がこれまでのように履修できていない現状を、ニュースなどでご覧になり心配された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、今回の看護部だよりでは、入職から半年経過した新人看護師研修の様子をご紹介します。

入職後、新人看護師たちは様々な研修を受けながら成長していきます。2週間程度は、OFF-JT(Off The Job Training)と呼ばれる座学やシミュレーションの集合研修が行われます。その後、部署の先輩から教わりながら学ぶOJT(On The Job Training)と呼ばれる現場教育に進みます。当院の新人看護師研修の特徴は、より円滑にOJTで安全に看護実践が行えるようにシナリオシミュレーションを取り入れていることです。



新人看護師の初めての研修は「目標管理」の研修でした。この研修では、“1年後に目指す看護師像”をテーマにグループワークを行い、目標を立案しました。最初はみんな緊張しながらお互いの顔を見合わせていましたが、最後には打ち解けた雰囲気の中で、役割を分担するなど協力して行うことができていました。

続いては、看護技術の研修を毎日テーマごとに行っていきます。看護師は毎日患者さんのベッドサイドで体温や血圧などに加えて、フィジカルアセスメントと呼ばれる身体観察を様々な手法で行います。得られた情報から病状の進行・回復状況を予測し、看護ケアや医師の診療とつながるため、フィジカルアセスメントは重要な技術です。当院ではまず、配属部署で先輩看護師の後ろにぴったりついてシャドーイングを行い、実際に行われるフィジカルアセスメントの一例を



確認しました。見学後のグループワークでは病態と実践との関連を確認し、対象者に合わせたフィジカルアセスメントのあり方を学びました。

看護学実習との大きな違いのひとつに、薬剤の取り扱いがあります。臨床現場で使用頻度の高い内服薬や点滴静脈内注射の準備は、OJTでも早期から先輩看護師の見守りの元、実施するようになります。

内服薬のシナリオシミュレーションでは、カルテで模擬患者の与薬指示を確認しながらのセットを行いました。さらに、先輩看護師が模擬患者を演じ、実際に内服薬に見立てた模擬薬を与薬するトレーニングを行いました。単に薬を渡すだけでなく、ベッドサイドに行く前にどのような情報を収集すべきか、何らかの理由で内服ができない場合には、どのように対応すべきかなどを実践的に学びました。



入職3週目を過ぎるとOFF-JTは週に1回、5月は2週間に1回といった具合に、OJTとOFF-JTが交互に実施され、徐々にOJT中心となっていきます。OFF-JTでは、新人看護師の成長に合わせて、その時々の課題を乗り越えるための研修が準備されています。

看護技術を徐々に修得した新人看護師たちは、夏～秋かけて受け持ち患者さんの人数が増え、多重課題に遭遇するようになります。多重課題に遭遇した時のヒントになるように、7月には「多重課題」の研修が行われました。研修では、複数患者の受け持ちをする場合のスケジュール管理のポイントを学び、優先順位を考え先輩に協力を依頼したり、お待たせした患者さんに声をかけたりすることができるようになりました。ここでも、複数受持ちのシナリオシミュレーションを実施し、頭で考えたことが実践に活かせるように経験から学んでいきました。



新人看護師たちは、安全な看護実践が行えるように、OFF-JTとOJTを繰り返して行きます。

まだまだ、研修は続きますが、現在ではOJTが中心となり、患者のみなさまはじめ、多方面から多くのことを学ばせていただいています。日々研鑽を続けている新人看護師を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。